

「あおり創造学」探究セミナー2026（東青地区）を開催しました

8月20日（木）本校図書学習センターにおいて、青森大学社会学部 准教授 石井 重成氏を講師として、地方独立行政法人青森県産業技術センター 工業総合研究所 所長 伊藤 健氏、同センター 農林総合研究所企画経営担当 企画経営監 倉内 賢一氏、同センター 水産総合研究所資源管理部 研究管理員 和田 由香氏、同センター 食品総合研究所加工技術部 主任研究員 落合 瞳子氏らをファシリテーターとして、「あおり創造学 探究セミナー2026（東青地区）」を開催しました。本セミナーは、学校や学年を超えた協働学習を通じて、生徒に挑戦する姿勢や主体的に社会へ参画する力を育み、持続可能な青森県を創造できる人財を育成することを目的としており、東青地区の各県立高校をはじめ地区外の黒石高校や八戸工業高校から、学年の枠を超えて全84名の生徒が参加しました。本校からは1年生8名が参加し、探究学習のあり方や進め方について学びました。

前半は、石井氏より「あおり創造学の意義と、探究的学びにおける10の技巧」という演題で、地域課題に注目した探究学習を行う意義や、様々な視点、身近な事例から探究学習の面白さをわかりやすく説明していただきました。他校の生徒とのグループワークの場面では、最初は緊張感もありましたが、活動を通して徐々に緊張がほぐれて活発な意見交換が行われていました。

後半には、石井氏のもとでワールドカフェ方式のワークショップを行い、現在取り組んでいるあおり創造学において「楽しさ」と「悩ましさ」について各グループで意見交換を行い、学校ごとに特色のある取り組みについて互いに説明する場面や、探究活動で生じる悩みについて、それを解消するための方策について、ファシリテーターや他校の先生型の助言を通して、気づきを得ている様子でした。また、グループメンバーを入れ替えて、他の班で話されていたことを共有し、さらにその話を踏まえて今後のあおり創造学を進めるために「大人に協力してほしいこと」について意見交換をしました。その中には、探究活動の資金源獲得のためにスポンサーを募る意見や、様々なプログラムに参加して探究を進めたり、企業と連携して、自分たちの可能性を伸ばしたりすることができるよう、様々な情報提供をしてほしい意見、今回のセミナーのような他校との交流を増やしてほしいという意見がありました。

活動後、生徒たちからは「ファシリテーターの方々の話がとても参考になった」、「自分たちはまだ探究活動のテーマを決める段階にいますが、今回のセミナーを通して大きなテーマ1つとっても見方を変えようと様々な分野につながることを学んだ」、「他校の生徒と意見交流することで、自分たちの取り組みの参考にしたいと思った」など、セミナーを通して多くのことを学んだようでした。各校それぞれの生徒が取り組んでいる探究学習について考える貴重な機会となりました。

○セミナーの様子

